

児童教育を支援する
「博報財団」が、すぐれた
取り組みを顕彰する

第49回「博報賞」受賞

教育活性化部門

東京都 認定NPO法人 開発教育協会

専門家と現場の声を 活かした、実践的な 参加型学習の教材

「世界には約70億もの人が
いますが、それを100人に
縮めてみたらどうなるでしょ
う?」

世界の「多様性」と「貧富
の格差」を分かりやすく可視
化した「世界がもし100人
の村だったら」というメール
メッセージで広まったこの問
いかけを、実際に身体を使い
ながら体感するワークショップ
教材として制作、発行して
いるのが、認定NPO法人
開発教育協会(DEAR)で
ある。2003年の初版発行
以来、発行部数は1万冊を超
え、全国の小中学校や大学で
広く活用されている。この「世
界がもし100人の村だった

ら」のほかにも、身近なもの
から世界とのつながりを知る
『パーム油のはなし』をはじめ
め、同法人が手がけた教材は
30種以上。いずれも参加型学
習(アクティブ・ラーニング)
の教育現場から高い支持を得
ている。

「教材は専門性をもつNGO
と現場で教材を使う側の教育
関係者などが集い、2年ほど
かけて制作します。たたき台
が出来上がると必ずお話し授
業をしますが、教師の予想以
上に子どもたちの反応がよい
こともよくあります。子ども
たちは軽々と想定を超えてく
るんです。その制作プロセス
は、私たちにとっても多くの
ことを学ぶ有意義な場になっ
ています」

そう語るのは、同法人事業
主任の八木亜紀子さん。DE

ARは、一人ひとりが世界で
起こっている貧困・飢餓、紛
争・戦争、環境破壊、人権
侵害といった問題をまず「知
り」、自分の問題として「考

え」、その解決に向けて「行
動することを目指す」「開発教
育」を長年にわたって推進し
てきた。その過程で培われた
メソッドやスキルを最大限に

生かし、時間をかけて制作さ
れる教材では、ワークシート
など学生たちが主体的に学ぶ
ための仕掛けはもちろん、参
加者が学びやすい環境づくり
のヒントや進行役(ファシリ
テーター)の役割にも触れら
れている。そのため、教材を
実際に使った教育関係者から
は「一方的に話を聞く授業と
比べて出席率も高く、積極的
に授業に参加する熱意も感じ
られる」といった報告が多く
寄せられるという。

自身の答えを 見つけ、変化していく ワークショップ

DEARは、参加型学習が
注目を集める以前から、一人
ひとりが主体的に参加する力
や、社会的課題解決に積極的
に取り組む姿勢の育成を目指
すワークショップの企画・運
営も行っている。教材同様、
現場からの信頼が厚く、クチ
コミで広がり、紹介や依頼を
受けることも多い。

2018年11月、米国大使
館主催で開催された「ガール
ズ・アンリミテッド・プログ
ラム(自分の未来を切り拓く

ワークショップ)」の企画・運
営もDEARが担当した。
このワークショップは、参
加者が自分自身を知り、夢
やゴールを見出しながら自
分なりのリーダーシップを
身に付ける人材育成プログ
ラムだ。東京・赤坂にある
「アメリカンセンターJAP
AN」の一室に集まっていた
のは、12歳から18歳までの
中高生35名。第1回目となっ
たこの日は、参加者全員が
初対面だった。

「これから、皆さんと一緒に
さまざまなプログラムに取り
組んでいきますが、守っても
らいたくないルールがあります。
『協力する』『よく聞く』『否
定しない』『楽しむ』。この
4つのルールを覚えておいて
ください」とDEARの進行
役スタッフの説明を受けて始
まったのは、自由に会場を歩
き回りながらの自己紹介プロ
グラム。身体を動かすことで
参加者たちの緊張もほぐれた
のか、数分後には会場に笑顔
があふれ始めた。こうした環
境づくりの秘訣を八木さんは
こう語る。

「まず、わたしたちがコント
ロールしないのが大切な点だ
い。



4人グループとなった自己
紹介では、「共通点を見つ
けてみよう!」と声がか
かった。



教材『写真で学ぼう! 地球の食卓』は、2017年消費者教育教材資料表彰で
大臣賞を受賞した。



ファシリテーターは参加者をコントロールすることは
せず、参加者からの自主的な意見や変化を待つ。



「教材づくりは大変なことよりも楽しいこと
のほうが多い」と語る
八木亜紀子さん。



「ガールズ・アンリミテッド・プログラム(自分の未来を切り拓くワークショップ)」の第1回を終え、満面の笑み
を浮かべる参加者とメンターたち。

一人ひとりが地球的諸課題を知り、 積極的に学び、自主性を育む 教材作成やワークショップ運営

1982年の設立以来、世界の貧困や格差、環境破壊や人権侵害といった
地球的諸課題を扱う教育活動や人材育成、教材作成への取り組みに博報賞が贈られた。

推薦者 お祝いのことば

開発教育協会さん、受賞
おめでとうございます。
36年間の実績が大きく
認められましたね。設立
当初から、世界の貧困や
格差、開発問題、環境破
壊や人権侵害といったグ
ローバリッシュに目を
向け、「公正で持続可
能な社会づくり」のため
の教育を進める姿勢は一
貫しており、教育NPO
の先駆的存在として、日
本の教育のあり方に素晴
らしい影響を与えてきた
と確信しています。貴会
が制作し送り出してきた
数々の教材を通して、学
習者は主体的に社会にか
かわる姿勢を身につけて
います。受賞を契機に、
貴会の活動が益々発展
し、広がっていくことを
心から祈っています。

大橋 正明 所長

聖心女子大学グローバル共生研究所